

平成 30 年度第 1 回仁淀川地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：平成 30 年 9 月 3 日（月） 13：30～16：00

場所：すこやかセンター伊野 大会議室

出席：委員 23 名中、21 名が出席（代理出席 1 名含む）

議事：(1) 産業振興計画関連 年間スケジュールについて

(2) 地域アクションプランについて

1) 第 3 期仁淀川地域アクションプランの進捗状況等について

2) 追加・修正等の案件について

(3) 産業成長戦略について

1) 移住促進の取り組みについて

2) 自然・体験型観光キャンペーンについて

議事 (1) (2) (3) について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）

議事については、すべて了承された。

※意見交換概要

(1) 産業振興計画関連 年間スケジュールについて

意見交換等、特になし。

(2) 地域アクションプランについて

(No.26 「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進)

(中澤委員代理)

仁淀ブルー観光協議会主催で 6 月に実施した「仁淀ブルーライド」については、流域全体で全国へ売り込める絶好の機会と捉え、引き続き実施していただきたい。

越知町に 4 月オープンしたキャンプ場（スノーピークおち仁淀川）の利用者を、いの町のむささび温泉に誘導するように地域支援企画員が調整してくれたことで、利用増につながっている。今後も大いに期待しており、今まで以上の支援をお願いしたい。

(No.18 いの町中心市街地の活性化)

(池田委員)

中心市街地の活性化については、手漉き和紙に必要な水が出ないことに起因し地域アクションプランの修正を行った。先日のワーキンググループでは、大変活発な意見が出され、出た意見を活性化協議会の中で整理することになっており、今後を期待している。

(No.31 いの町本川地区での山岳観光の推進)

(池田委員)

山岳観光の修正について、山荘しらは現在休業中であるが、石鎚山系連携事業の中で改修することを目指している。仁淀ブルー観光協議会とも連携しながら観光客誘致に取り組んでも

らいたいと考えている。

(No.35 体験型観光の拠点となるキャンプ場の整備による交流人口の拡大と地域の活性化)

(小田委員)

4月22日にオープンしたキャンプ場の8月末までの利用者は4,794人で、県外客が7割を超えている。この施設は仁淀川流域の拠点とも考えており、情報発信なども通じて、流域への県外観光客の増加につながればと思っている。

(伊藤委員)

以前のこの会でも発言したが、県道18号の改良工事の計画や進捗状況はどうなっているか。

(西田中央西土木事務所越知事務所長)

狭隘部分は、対向車接近装置の設置や草刈りによる見通しの確保等の対策を行っている。今後は、黒瀬地区の未改良部分については二車線化に、黒瀬から片岡地区間については橋梁を設置して対岸にバイパスを通すように取り組みを進めている。

(3) 産業成長戦略について

(移住促進の取り組みについて)

(大石委員)

年度ごとの定住率はどのような状況か。

(細川移住促進課チーフ)

アンケート調査で把握している数字として、平成26年に移住された方の定住率が79%、平成27年に移住された方は89%となっている。ただ、アンケートが返ってきていない方もいることから、実態はもう少し低いのではないかという感触を持っている。

(自然・体験型観光キャンペーンについて)

(大石委員)

自然を主軸にした観光は、中山間地域にとっては大変ありがたいが、道路事情が悪く、大型バスで来ても途中から小型バスに乗り換えるなどの負担が伴うことが多い。県からの支援があれば、より多くの誘客につながると思うので検討願いたい。

(和田地域観光課課長補佐)

現在、県では社会資本整備の推進に向けて取り組んでおり、観光振興部からも様々な道路の整備等について要望している。優先順位はあるが、引き続き、地域支援企画員とともに要望を行っていききたい。

(馬場委員)

Wi-Fi ルーターが普及しておらず、海外の友人に写真などをなかなか送れないなどの話を聞く。

(和田地域観光課課長補佐)

Wi-Fi 環境については、県としても取り組んでいるが、やはり随分遅れている。おもてなし課が外国人観光客向けに Wi-Fi ルーターの貸し出しを行っているものの、元々の電波状況が良くないという問題点もあり、引き続き庁内で協力しながら整備を進めていきたい。

(以上)